

川端康成 生涯の恩師 倉崎先生は松江出身

日本人初のノーベル文学賞受賞者、川端康成が旧制中学時代に執筆し、初めて雑誌に載った文章「生徒の肩に柩をのせて」

の中で追悼した学校教師、倉崎仁一郎が松江市出身であることが研究者の調べで分かった。文章は川端文学の原点とも言え、倉崎の葬儀を題材にした作品は後年にも2回発表するなど、大作家になっても恩師は大きな存在だった。川端と松江をつなぐ新たな発見として、郷土文学研究の発展も期待される。

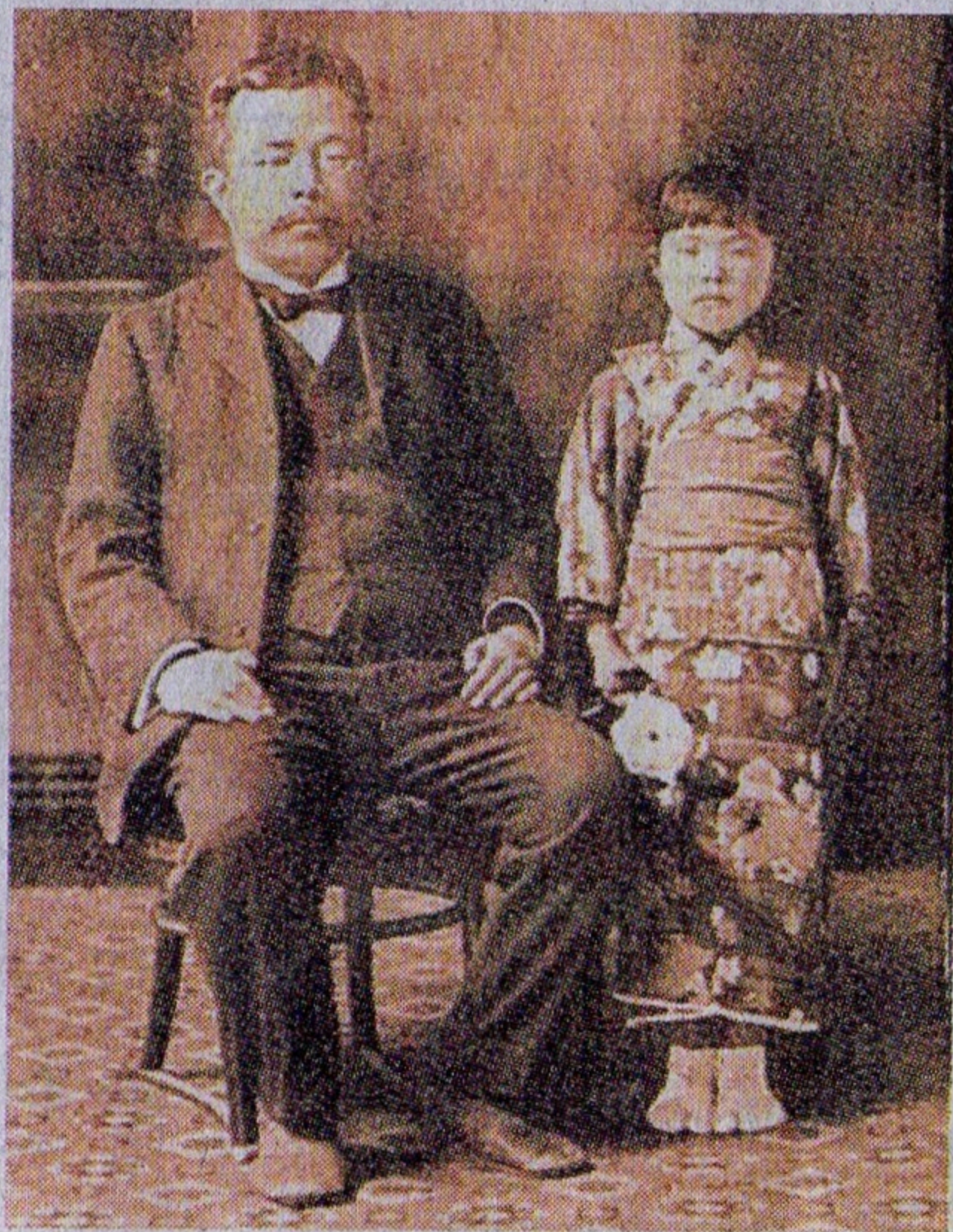
(23面に関連記事)

掲載雑誌の「団欒」を3年前に発見した、熊本市の尚綱大学の宮崎尚子助教(38)は日本近代文学が確認した。

文章は大阪府立茨木中学(現・茨木高校)5年生の川端が、英語教師だった倉崎(1868〜1917年)の急死を悼み、学年全員で葬儀を挙げた時の体験を記述。同助教は倉崎の死後1年後に発行された同校同窓会の会報追悼号で、倉崎が松江市出身で旧制松江中学(現・松江

北高校)の卒業生であることを知り、松江北高同窓会・双松会のメンバーと調査を進めた。

倉崎の死を受けた川端は文章冒頭で「エッ!ほんとうか?信ずるにはあまりの驚愕であった」とし、涙に暮れる友人や、棺を生徒が肩に載せて運んだ様子を描写。この時の体験は、後に「雪国」などの名作を発表してからも作品名を変えて執筆した。また、1918年の日記では倉崎を「倉っさん」と呼び、「先生の娘2人のどちらかを結婚相手にしよう」とまで書き、強く慕っていたことが分かる。



倉崎仁一郎(左)と娘とみられる人物(宮崎尚子助教の論文から引用)

「親のような存在」

で確認
報確
会報
窓会
同窓
研究

追悼号は110ページあり、職員や卒業生、在校生らが執筆し、倉崎は病気や不登校の生徒と親身になって付き合っている、英語の学識も豊富だったことなどを紹介。このほか、川端の同校の後輩で評論家の大宅壮一(1900〜70年)も日記で倉崎の死を悼んだことが分かっており、人望の厚さがうかがえる。

川端は国語より英語の成績が良く、後に東京帝国大(現・東京大)の英文科に進学したのも倉崎の影響が強いと推測される。宮崎助教は「父、母、祖母、姉、祖父を続けて亡くした川端にとって親のような存在で、生涯にわたって恩師と言いつけたのは倉崎先生だけだったのではないか」と話した。

クリック

川端康成 代表作に「伊豆の踊子」「雪国」などがある。1899年、大阪市生まれ。幼少期に両親らと死別した。1917年刊行の雑誌「団欒」は長らく所在が不明で、3年前に名古屋市内の古書店で見つかった。脳溢血で急死した英語教師、倉崎仁一郎の葬儀を書いた作品には1927年の「倉木先生の葬式」と、49年の「師の棺を肩に」もある。東京帝国大学英文科に進み、後に国文科に転じた。68年にノーベル文学賞を受賞。72年に死去、ガス自殺と報じられた。

調査協力 新事実裏付け

母校・松江北高卒業生会

川端康成恩師・倉崎先生

川端康成の恩師は松江市の出身。尚
郷土文学研究の発展も期待される中、倉
崎の後輩にあたる松江北高の卒業生が、
宮崎助教の調査に協力した。

校)の出身であることを旧制茨木中学
(現・茨木高校)の資料で突き止めた。

郷土文学研究の発展も期待される中、倉

崎の後輩にあたる松江北高の卒業生が、

宮崎助教の調査に協力した。

発見した宮崎助教「感謝」



倉崎仁一郎について調査した(左から)石倉昭子さん、
宮崎尚子助教、押田良樹さん(松江市内)

茨木中の資料によれば倉
崎は1868(明治元)年
生まれで、79年に松江中に
入学し高等科を卒業。島根
県尋常中学校や松江高等小
学校、佐賀県尋常中学校を
経て、1895(同28)年
から1917(大正6)年

に亡くなるまでの22年間、
茨木中で勤務した。

宮崎助教はこれを知り、

近畿在住の松江北高卒業生

でつくる「近畿双松会」に

「何か分かることはないか」

と連絡。同会会長で11期卒

業生の押田良樹さん(72)と、

大阪府吹田市在住の同

期生の石倉昭子さん(72)と、

松江市在住の宮崎尚子さん(72)と、

宮崎助教の調査に協力した。

松江北高の百年史でも詳

細な人物紹介がなく、押田

さんは、小泉八雲と親しか

った松江中教頭の西田千太

郎(1862-97)と交流

があったのではないかと推



層の地域医療充実期待

松江赤十字病院 改築で竣工式

2013年4月に改築 費は172億円。救命救
工事を終えた松江市母衣
町の松江赤十字病院の
竣工式が2日、現地であ
った。病院や自治体関係
者ら約100人が、地域
の中核病院としてのさら
なる発展に期待を寄せ
た。

兵衛同県知事が「他の
医療機関と連携し、地域
設の老朽化に伴い、07年
2月に着工。病棟を中心
とした高層館(地下1階、
地上14階)と外来部門の
竣工式は、同病院によ

学校給食 アレルギー指針策定

出雲市教育委員会は、食
給食センターと計83カ所の
物アレルギー対応給食マニ
ュアルを見直し、ガイドラ
インを策定した。6カ所の
に盛り込み、事故防止に役

出雲市 出雲市
教委 対応や注意点盛る

市立幼稚園、小中学校の具
体的な対応や注意点を新た
に記している。

東京都内で12年12月、給
食でアレルギー対象食品を
食べた小学生が亡くなった
ことなどを受け、きめ細か
く対応できるように内容を見
直した。

センターはアレルギー原
因食品の混入防止、作業の
工程表や動線図の作成、加
工品や調味料のアレルギー
表示の資料提供を業者に求
める。

学校は担任による対象生
徒らの名前やクラス、体調
の確認、食物アレルギーを
理解する教育の実施、救命
救急の知識や技術習得など
を盛り込んだ。

各施設はガイドラインを

立てる。

同市教委はこれまで、ア
レルギー原因食品除去や代
替食提供、弁当持参などの
対策を実施。2005年10
月にマニュアルを作り、セ
ンターと学校の役割を簡単

を放っておけない」という
倉崎先生の精神が受け継が
れている」と喜び、押田さ
んは「倉崎先生のすべてが
知りたいし、先生のことを
松江北高の卒業生に知って
ほしい」と話した。

また石倉さんは、広島大
研究が進まなかった。「人
宮崎助教は「双松会の方
がいなければこんなに早く
崎との交流が確認できた。

務先の佐賀県から毎年お盆
の時期に帰省した際には会
うなど、17カ所の記述で倉
崎との交流が確認できた。